

■■最強の投資手法「スーパーボリンジャー」によるシンプルトレード■■

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。
分析は、全て、先週末6月28日の日足終値(NY時間午後5時)時点での判断です。

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、

スイングトレードであれば、主に4時間足での売買判断、

ゆったりデイトレードであれば、主に1時間足での売買判断、

デイトレードであれば、主に5分足での売買判断となります。

■ドル円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

尚、(1)遅行スパンが陽転している、(2)終値が+2 σ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなどが判断根拠。

今後は、終値と+1 σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1 σ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1 σ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

尚、(1)遅行スパンが陽転している、(2)終値が+2 σ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなどが判断根拠。

今後は、終値と+1 σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1 σ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1 σ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<4時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると-2 σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと+2 σ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となり、+2 σ ライン近辺では戻り売り戦略が有効となりやすい。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする点には注意しておきたい。

<<1時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1)遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2)終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
- 3)バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4)遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、

等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

■ユーロドル

<<週足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

<<日足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると+2 σ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと-2 σ ラインの間を往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は戻り売り戦略が有効となり、-2 σ ライン近辺では押し目買い戦略が有効となりやすい。一方、終値がセンターラインを上回ると、本格的な調整反騰局面入りする点には注意しておきたい。

<<4時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、
等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

<<1時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、
等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買い

ゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、
等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

<<日足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、
等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

<<4時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、

等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

<<1時間足>>

本格上昇トレンド局面。

尚、(1)遅行スパンが陽転している、(2)終値が $+2\sigma$ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなどが判断根拠。

今後は、終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

■ポンドドル

<<週足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1)遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2)終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3)バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
 - 4)遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

<<日足>>

本格下落トレンド局面。

尚、(1)遅行スパンが陰転している、(2)終値が -2σ を下回ったこと、(3)バンド幅が

拡大傾向となっていることなどが判断根拠。

今後は、終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が -1σ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

<<4 時間足>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

遅行スパンが陰転しつつもローソク足に絡んでいることや、終値が -2σ ラインを下回っていないこと、バンド幅の拡大傾向が鮮明でないことなどが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、下落バイアスを伴っているため、特に、センターライン以上 $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯での戻り売り戦略がより有効と判断。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、

等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

■ユーロ円

<<週足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となり、 $+2\sigma$ ライン近辺では戻り売り戦略が有効となりやすい。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする点には注意しておきたい。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

尚、(1)遅行スパンが陽転している、(2)終値が $+2\sigma$ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなどが判断根拠。

今後は、終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<4時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を

往來しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となり、+2 σ ライン近辺では戻り売り戦略が有効となりやすい。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする点には注意しておきたい。

<<1時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

■豪ドル円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

尚、(1)遅行スパンが陽転している、(2)終値が+2 σ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなどが判断根拠。

今後は、終値と+1 σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1 σ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1 σ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

尚、(1)遅行スパンが陽転している、(2)終値が+2 σ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなどが判断根拠。

今後は、終値と+1 σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1 σ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1 σ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<4時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると-2 σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと+2 σ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となり、+2 σ ライン近辺では戻り売り戦略が有効となりやすい。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする点には注意しておきたい。

<<1時間足>>

本格上昇トレンド局面。

尚、(1)遅行スパンが陽転している、(2)終値が+2 σ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなどが判断根拠。

今後は、終値と+1 σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1 σ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1 σ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

■ポンド円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

尚、(1)遅行スパンが陽転している、(2)終値が+2 σ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなどが判断根拠。

今後は、終値と+1 σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1 σ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1 σ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

尚、(1)遅行スパンが陽転している、(2)終値が+2 σ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなどが判断根拠。

今後は、終値と+1 σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1 σ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1 σ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<4時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると-2 σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと+2 σ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となり、+2 σ ライン近辺では戻り売り戦略が有効となりやすい。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする点には注意

しておきたい。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、
等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

以上です。